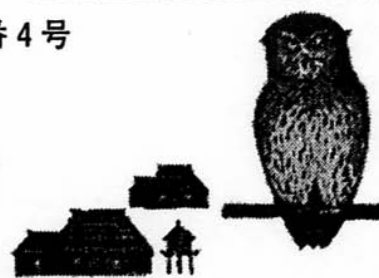


コタンメール

第14号 平成17年4月15日 発行



花岡さん お元気で よろしく北原さん

伝承課職員の花岡ケイ子さんが、3月に定年退職を迎えました。花岡さんは、15年間勤めたアイヌ民族博物館で、古式舞踊や手工芸などの伝承活動を行ってきました。これからもお元気で、また私たちをご指導ください。



お祝いの花束を受け取る花岡さん（左）

4月から、学芸員の北原次郎太さんが入りました。北原さんはアイヌ文化が専門で、アイヌ語にも長けています。また、トンコリ（樺太アイヌの弦楽器）を作るほどの器用な人で、これからの活躍が期待されています。



白老町職員研修で講演する北原さん（中央）

平成17年度アイヌ語教室 生徒募集！

～アイヌ語を基礎から学びたい、体験しながら学びたい方～

今年11月には北海道ウタリ協会が主催する「アイヌ民族文化祭」と、アイヌ文化振興・研究推進機構が主催するアイヌ語弁論大会「イタカンロー」が白老町で開催されます。

アイヌ語を学んで、ぜひ地元で開催される大会に参加しましょう！

開催期間：平成17年5月～平成18年3月（月2～3回開催予定）

場 所：アイヌ民族博物館研修室 等

会 費：無料（※事業により、参加費がかかる場合があります。）

お申し込み・お問い合わせ：アイヌ民族博物館学芸課 Tel 0144-82-4199 まで

～昨年開催した教室のようす～



カワシンジュガイ採取（千歳川）



善光寺見学（伊達市）



自然観察会（ポロト休養林）

●これからの予定

コタンノミを開催します

5月7日から8日にかけて、コタンノミを開催します。

かつてのアイヌの暮らしでは、春と秋が一年の節目に当たり、大きなお祭りを行っていました。

春の祭りでは、厳しい冬を乗り越えられた喜びと感謝、漁や山菜採りといった夏の仕事の安全をカムイに祈ります。当館では、白老地方や静内地方の記録をもとにしながらこの祭りの復元を試みています。

私たちが経験を積むことももちろんですが、地域の方々にアイヌ文化に触れていただく機会として、広く館外にも公開しています。みなさんどうぞ足をお運びください。（北原次郎太）

4月	16日	土	アイヌ語教室「聞き取り練習」
	25日	月	チブサンケ（ポロト湖畔）
5月	7日	土	コタンノミ
	14日	土	アイヌ語教室「アイヌ語入門 ～わかりやすい文法～」
	15日	日	アイヌ語教室「春の野草観察会 ～アイヌ語の植物名とその利用～」

アシリカンピソシ エク ナ（新しい本が来たよ）

近年、研究書から児童書まで、アイヌ文化を取り扱った書籍が増えています。そこで、今号から毎月1冊程度、新刊を紹介します。

◆『ピリカ会関係資料の調査研究』（編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター）

アイヌ民族文化研究センターでは、平成11年から「ピリカ会」という団体について調査を進めてきました。「ピリカ会」とは、約100年前に森町で設立された、アイヌ文化の調査と記録を目的とする会で、1910年には白老での調査も行っています。

同書には「ピリカ会」が発行した印刷物や収集した民具資料、文献資料および目録、これらの解説文が収められています。中でも目を引くのは同会が発行した絵ハガキです。

これらの絵ハガキは、同会の活動の一環として撮影された写真で作成したものです。獣医師であり、八甲田山で遭難陸軍兵救助をしたことでも有名な落部の弁開 風次郎氏も、出演者として協力しています。絵ハガキには、同氏によるイナウ作りや「キラウスアイネプ」というお化けの面をかぶって遊ぶ子供たち、シンタ（揺りかご）に乗せた赤ん坊をあやしている場面など、珍しい情景も収められています。

このほか、同センターで毎年発行している『研究紀要』の11号も届いています。内容に関心がおありの方は、学芸課までお問い合わせ下さい。（北原次郎太）

編集後記

博物館入り口に建っているコタンコロク像の横に、観光客の皆さんに喜んでもらおうと今年の初めに氷瀑を作りましたが、春が訪れて氷がとけたら、氷瀑に使ったネコヤナギの枝から芽が出てきました。

枝に水をかけ、寒風で凍らせて氷瀑を作ったのに、

それがまだ生きているなんて！植物の生命力は強いんだ！と感嘆しました。

今年はいつまでも寒いと思っていたのですが、ネコヤナギは春の光をしっかりと受けとめていたのですね。 木田瑞恵